

まえがき

政府の再生可能エネルギーシェア拡大の方針に沿って全国各地で、メガソーラーの建設が進んでいる。しかしメガソーラーの建設に適した用地の確保は今後困難になる可能性があり、ミドルクラス規模のソーラー発電所のニーズが高まっている。

この規模の発電所の設置には、農地が最適ではあるが、農地法上の制約があり、たとえ耕作放棄地であっても有効活用が難しいのが現状である。

一方で、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災と原子力災害によって、これまでのエネルギー政策を根本から再構築する必要があるのも事実である。

ここ、福島の地においては、津波被害に加え、その後の原子力災害によって、人類が経験したことのない危機に直面しており、故郷を追われ、疲弊した農家に接するのは誠に忍びない。

本事業では、これまで実現が難しかった、農地へのPVの設置を行いつつ農地法上の問題をクリアした発電所のモデルを構築することを目的とした。

また、原子力災害やその風評被害によって耕作が難しい福島の農地で、実証実験を行い、農家を売電収入で、長期的にサポートするビジネスモデルの確立を狙った。

この事業が、福島の人々の心を照らす小さな明かりの一つとなったことを信じたい。

日本の全国民は、現在の豊かなエネルギー社会が、大きな犠牲とリスクの上に存在していることを、今一度思い出して欲しい。

株式会社フォーハーフ
代表取締役 亀井秀郎